

2024年 先生のための夏休み経済教室（東京会場）

「経済の視点で地理の授業を創る」

—中西先生の実践報告に関連して—

2024年8月19日（月）

三橋 浩志

（文部科学省 初等中等教育局）

【社会科（地理）教育における経済地理学習の視点】

「経済地理学習」の主な活動や目標

【選択】系統地理学としての経済地理学、望ましい国土像の事例テーマ（地理探究）

【必履修】生活文化としての経済学習、生活圏学習の事例テーマ（地理総合）

義務教育

日本の特色と地域の特色（中学校）

産業を主題にした地域の理解（中学校）

生産性、品質の学習（小学5年）

地域と企業（個店）の歴史（小学4年）

企業（個店）の「工夫」（小学3年）

「経済地理学習」に必要な視点

経済地理学の最新の学説なども勘案。
→「18歳成人」として「国土づくり」

産業そのものの学習ではなく、地域の生活文化の理解。地球的課題や国際協力、望ましい地域像などは、持続可能な地域づくりとの関係で学習。
→産業学習に深入りせず、生活文化学習

中学生は、世界地誌、日本地誌の地誌学習での主題、テーマとしての産業学習。産業の理解ではなく、地域の理解が目標。
→「物産の暗記」にならないように留意

小学生は、「工夫」概念から、「つながり」「生産性・品質」概念に年齢の応じて発展
→経済地理の概念を個別事例から地域に展開

小学校の社会科での経済地理学習＝経済現象の社会認識の形成＝系統地理的学習

主にミクロ経済学が扱う経済現象

社会における経済現象の概念（社会認識）
を発達段階に応じて形成する

3年生：ミクロの「工夫」←需要と供給

4年生：ミクロの「継続性」

（一部セミマクロ）

5年生：ミクロの「生産性」「品質」

（一部セミマクロ）

6年生：マクロとの関わり（国際経済）

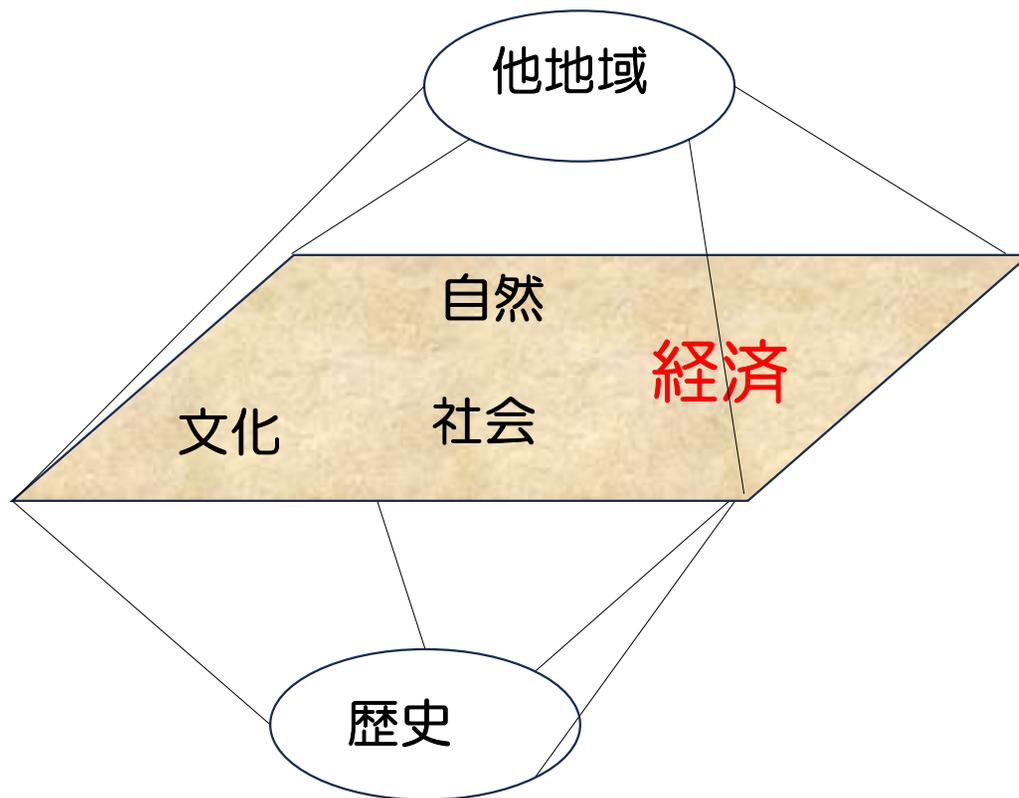
世界

国土

都道府県

市町村

中学校の地理学習＝地誌学習



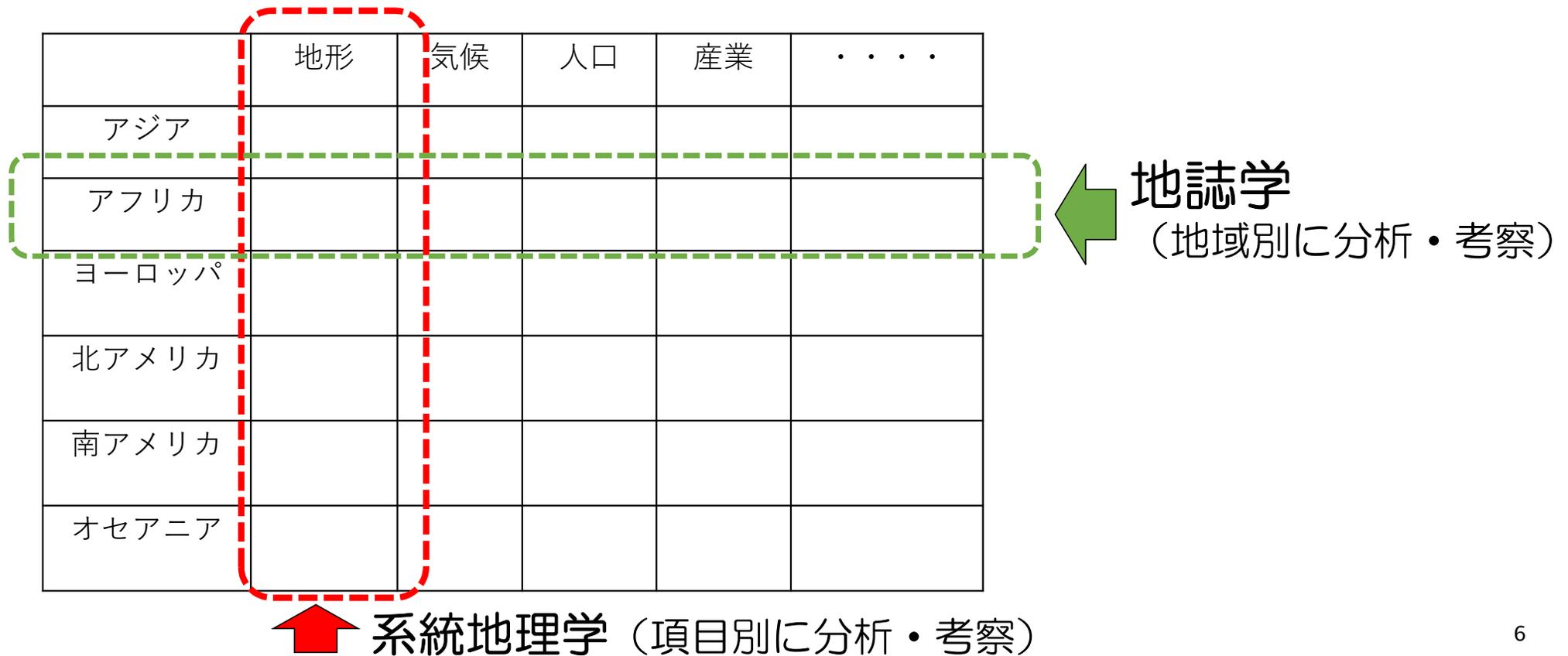
経済現象は、あくまでも地域の理解を
深めるための視点
×経済地理的事象の理解ではない

経済を中心に他の地理的事象を結びつ
けて学ぶ「動態地誌学習」
←項目を暗記するだけの「静態地誌」
への反省

【経済の視点を「地域理解」につなげる】

- 中学校地理の学習は、地域の理解を深めることが目的。【中学1年生】で学習する世界地誌学習は、「6州大陸の地理的な理解」が目的。
- 経済の視点をを用いることで、世界の各州の地域的特色の理解を『助ける』、『深める』ことにつなげる実践が重要。
- 一方、中学校の地理では、経済現象の空間的な傾向を明らかにする系統地理的な学習は学習目的ではない。しかし、世界地誌を学ぶ中で経済現象を扱うと、経済現象の空間的な規則性に気づくことも可能。

系統地理学と地誌学の関係は
「地理行列（項目×地域）」と言われる（Brian Berry）



地誌学 (Regional geography/Topography) の見方

例：

「茨城県西部はどのような地域なのか？」

「諸要素を関連づけて地域を説明すると、・・・・・・です。」

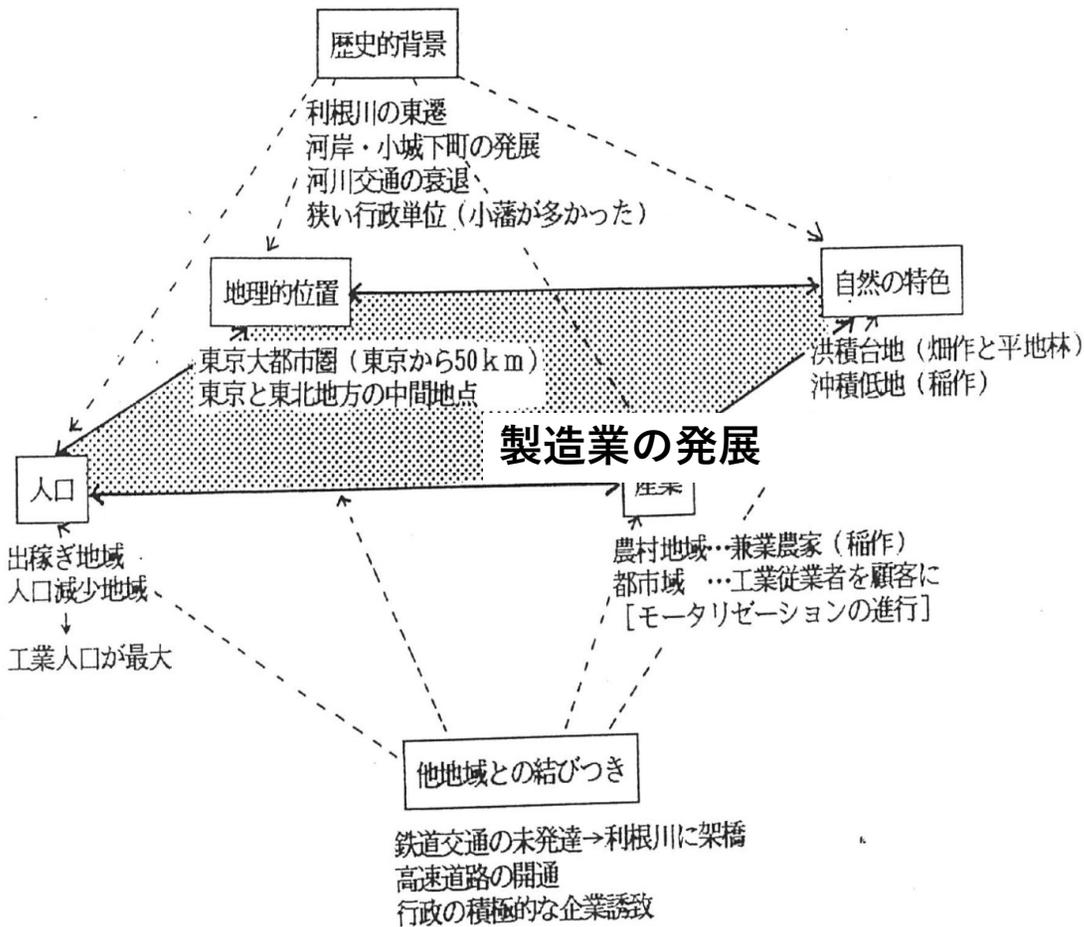
①各項目を静的に記述

Static topography (静態地誌)

自然は・・・・・・、人口は・・・・・・、主要都市は・・・・・・、農業は・・・・・・、工業は・・・・・・、商業は・・・・・・、主な伝統文化は・・・・・・、教育環境は・・・・・・。

②中心となる項目を設定し、動的に記述

Dynamic topography (動態地誌)



茨城県西部の工業化を各要素と関連付けると、個別要素のなかでも製造業の発展に関連する要素に特化して説明し、そこから地域を描くことが可能 (動態的な地誌)

三橋浩志 (1991) 地理教育における工業化に伴う地域変容の教材化
 『筑波社会科学研究 (No.10)』

【「地理的な見方・考え方」と経済地理学理論の関係】

- 経済の視点を意識することで、地域の理解を「助ける」ことが可能。それはなぜか？
- 現実の社会現象は、経済の視点で展開していることが多い。従って、経済の視点を加味することで、地域理解が容易になる。
- 一方、経済現象の空間的な傾向や特性を明らかにするのは、系統地理的な学習。経済現象には、空間的な規則性があることを理解することで、経済的な考え方が修得可能に。
- 例えば、「輸送費を重視すると、原材料産地の中間点に工場が立地する」というウェーバーの工業立地論を理解していると、実社会にでて、経済学と地理学が融合した考え方ができる可能性が高まる。【生きる学び】につながる。

【現実の経済現象と学習内容の乖離】

- 一方で、経済地理学のモデルは、実態の経済現象と乖離することも多い。各種解析から経済構造を分析する実証経済学では、要因をかなり正確に解明することが可能。しかし、経済地理学で計量解析を行うと、地域固有の要素が多いため、当てはまりが低いケースが多い。
- また、経済地理学の伝統的な成果や定番的な教材や用語（例：「四大」工業地帯など）と、現実との乖離などをどの様に捉えるべきか？
- 経済のソフト化などの現実の変化と、基礎的な学習内容の基本項目をどの様に授業のなかで結びつけるか？（例：チューリップの日本一の生産県を富山県と扱う授業が多いが、「切り花」の日本一は新潟県。経済成長は輸出が牽引した時代の「球根の輸出」の富山県と、21世紀の経済のソフト化で国内需要の切り花の中心の新潟県をどの様に扱うか）

「チューリップの日本一は富山県」と扱う授業が多いが、「切り花」の日本一は新潟県。どちらを扱うことが生徒にとって重要か？

チューリップの球根の生産量（2014年）

- 富山県：1,700万球
 - 新潟県：800万球
- } 全国シェア
100%

チューリップの切り花の生産額（2014年）

- 新潟県：1,200万本
 - 富山県：300万本
- } 全国シェア
55%

北陸農政局資料より作成

※2015年以降は、チューリップに限定した球根と切り花の公的データは公開されていない

チューリップの球根は日本の主要輸出品

【昭和の常識は、平成の非常識？ では令和では？】

- 富山県のチューリップの球根栽培は、。大正時代から貴重な外貨獲得の農作物。戦後もチューリップ球根の輸出は続き、1970年頃が球根輸出のピーク。1990年に富山からの球根輸出はゼロに。
- 球根を出荷する富山県は、畑で花を一面に咲かせて、その後に球根を収穫。典型的な富山県の春の景観。富山県のアイデンティティ。
- 一方、切り花主体の新潟県は「一面の開花したチューリップ」の景観は少ない。しかし、「切り花」市場の創出で、大都市圏をはじめとする経済のソフト化を牽引（例：地下鉄構内などの花屋さんがこの30年で大規模に立地展開）。
- しかし、2020年ごろから、約20年ぶりに台湾や中国向けの輸出が再開。東アジアの経済成長との関係で、変化。
- 「定番教材」「アイデンティティ」と「経済構造の変化」をどの様に授業実践するのか。

【現実の経済現象と学習内容の乖離】

- 経済モデルと現実の乖離に留まらず、定番的な教材や用語（例：「四大」工業地帯など）と、現実との乖離などをどの様に捉えるべきかも課題。
- 例えば、21世紀を迎えて「経済のソフト化」などの現実の変化と、工業化社会からの基礎的な学習内容（定番教材）をどの様に授業のなかでバランスして、結びつけるか。
- 児童・生徒の発達段階を考慮した経済地理学としての一貫的な学習をどの様に考えるべきか？

【スパイラルな学習の意味をどこまで実践に組み込むか】

- 小学校、中学校、高等学校と経済現象の地理的な学習は既習済み。小学校でも「四大工業地帯」は既習。中学校でも「四大工業地帯」を学ぶ。同じ内容を小学校でも中学校で学んでいる。
- 生徒の発達段階に応じた学習になると、「同様のコンテンツが重複」していると受け止められる。「同じ内容をまた学ぶ」ことは、生徒の社会科嫌いを招く懸念も。一方で、「スパイラルに、何度も学習することで、知識が定着する」という考えもある。
- 「深い学び」が、単に学習用語を増やすことになっていないか？スパイラルな学習の意味を小中高の一貫性のなかで如何に考えるか。

【スパイラルな学習の意味をどこまで実践に組み込むか】

- 「発達段階に応じて、難しい用語を学ぶ」だけのスパイラル学習から、内容と方法を組み合わせたスパイラル学習に深化すべき。その際に、経済の視点を加味することは、有用な「深まり」になるのでは。
- 理数系教科では、学習内容そのものに極めて高い順序性が存在する。しかし、社会科教育、地理教育では、学習内容の順序性は厳密ではない。内容の順序性が高くないなか、「発達段階に応じた学びの深化」は、「詳しく学ぶ」、「既習を踏まえる」に加えて他に何か必要なのか。経済学という社会科学の概念を用いた「経済的な見方・考え方」は、有用な視点になるか。

【「物産の暗記だけ批判」をどの様に意識するか】

- 経済地理分野の学習は、「地名物産の暗記」として正誤判断が明確なため、試験問題に出題しやすい。その結果、「物産の暗記」としての経済地理分野への比重が高かった。
- 一方で、中学校の地誌学習、高等学校「地理総合」の「世界の生活文化の学習」で経済地理的な内容を扱う際に、「地域の理解」や「生活文化の理解」という目標を意識した実践になっているか。経済地理に関する事象を網羅的に学ぶ（暗記させる）実践になっていないか。
- しかし、国民の基礎教養としての「地名物産の暗記」も一定必要。「スマホでネット検索するので、地名物産の基礎的知識は不要」との意見もあるが、「鳥取県と島根県の位置関係が分からない」「みかんといえばどの県の特産品か分からない」国民を育てることは、やはり問題では・・・。

【アクティブラーニングと経済地理学習の関係】

- 学校教育で「まちづくり学習」を授業実践する際、地域における合意形成や、都市計画などの社会工学、さらに政策科学の要素も必要である。しかし、地理教員（社会科教員）は、教員養成から授業実践のなかでそのようなトレーニングを受けていないとの指摘もある。
- さらに、実生活でも、原体験でも、町内会活動や氏子組織による祭事、さらに、市民活動を含む地域づくりに関与した経験が極めて脆弱になりつつある。そのため、社会科教員に加え、地域住民や地域企業が連携することで、「地域づくり学習」を充実することが課題である。

【地域活動、ボランティア活動への参加率】

全職業平均：39.4%

教員平均：34.1%



マイナス5ポイント

総務省（2021年）『令和3年社会生活基本調査』より

【参考】地理教育における「地域づくり学習」の体系化の視点

「地域づくり学習」の主な活動や目標

【選択】グローバルの観点から国土を分析、考察し、ローカルでの行動などを提言（地理探究）

【必履修】生活圏スケールの調査・分析技能。地域の将来像や政策アイデアの提言（地理総合）

義務教育

地域調査の手法と活用法の習得（中学校）

政治の仕組みが不可欠（小学6年）

地域内外の諸要素の結びつき（小学5年）

地域と個人の関係（小学4年）

地域内の個人（個店）レベル（小学3年）

「地域づくり学習」に必要な視点

「18歳成人」として「地域づくり」に関わる生徒、生涯にわたって「地域づくり」に関与

計画系、政策系の諸学問の知見も必要
←（将来像は科学的か（単なる「願い」だけではない）、政策実現には何が必要か（思い付きのアイデアを政策に）等）

「地域づくり」に関わる分析、考察方法（地理学の分析、考察手法）を習得
→「地域づくり」の基礎的素養を習得

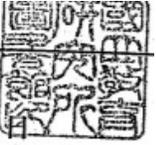
地域での気づきが重要（実体験を介して「地域づくり」の基礎に触れること）
→「地域づくり」を嫌いにならない

三橋浩志（2024）「SDGsの実現に向けた地理教育における「地域づくり学習」の体系」『中等社会科教育研究』No42, pp1~pp7.

【「なぜ学校で地理を学ぶのか？」に立ち返って】

- 地理学は人と自然の関係学
- 地理学では環境をどう見るか
 - ✓ 環境はたくさんの要素で成り立っている【多様性】
 - ✓ たくさんの関係性がある【関係性】
 - ✓ 地図の上で考えるのが基本【空間性】
 - ✓ 歴史あるいは土地の履歴を大切と考える【歴史性】
 - ✓ スケールによって見え方が違う【階層性】

【なぜ、GHQによる停止教科は「国史」「修身」「地理」の3教科だったのか。「墨塗り教科書」でも対応できない教科】



一 日本の地図

本の地図をひらいて見ませう。

まづ私たちの住んでゐる郷土が、どのへんにあるかをしらべませう。さうして、それが日本全體から見て、北の方にあるか、西の方にあるか、また眞中どころはあるかなどに注意しませう。さうすれば、しぜんと日本全體の形が、どんなふうになつてゐるかがはつきりして來るでせう。

太平洋上、北東から南西へかけて長く連なつてゐる島々が、日本列島で、大きな島や、小さな島が並んでゐます。大きな島にはどんな島があるか、またそのうちでもいちばん大きな島は、どれであるかをしらべてみなさい。いちばん大きな島は本州で、それが日本

一 日本の地図

列島のちやうど眞中になつてゐることに気がつくでせう。本州の北には北海道本島があるし、本州の西に九州島があります。また、北海道本島から北東へ向かつて千島列島があるし、九州島と臺灣との間には琉球列島があります。

北の千島列島、中央の本州、南の琉球列島が、それぞれ太平洋へ向かつて弓なりに張り出してゐるぐあひは、日本列島全體をぐつと引きしめてゐるやうで、かゝした形から、われわれは何かしら強い力がこもつてゐるやうに感じます。

どうみても、日本列島はへいぼんな形ではありません。アジア大陸の前面に立つて、太平洋へ向かつてをしく進むすがたが想像されるとともに、また太平洋に對して大陸を守る役目をしてゐるやうにも考へられます。

『初等科地理（上）』
文部省著（1943年）

国立教育政策研究所教育図書館

「近代教科書デジタルアーカイブ」

<https://www.nier.go.jp/library/textbooks/index.html>

一 大東亞

出づる國日本の東海岸に打ち寄せる波は、そのまま續いては、
てしもない太平洋を越え、はるかにアメリカの岸邊を洗つてゐるま



東京中心の大東亞圖

す。同じ波が、北は霧のアリュートン
に連なり、南は熱帯の海を越えて南
極に達し、更にインド洋の荒波にも
つながつてゐるのです。西にはま
た、日本海、支那海など、ひとまたぎの
内海をへだてて、高山、大平原、大沙漠
を抱く廣大なアジア大陸が横たは
つてゐます。

日本は、この大海洋と大陸とを結ぶ位置にあつて、一見小さな島
國のやうに思はれますが、よく見ると、北東から南西へかけ、あたか
もみすまるの玉のやうにつながり、いかにも大八洲の名にふさは
しい、頼もしい姿をしてゐます。北へも南へも、西へも東へも、ぐん
ぐんのびて行く力にみちあふれた姿をしてゐます。

もともと、わが國は神のお生みになつた尊い神國で、遠い昔から
開けて来たばかりでなく、今日も、こののちも、天地とともにきはま
りなく、榮えて行く國がらであります。これまで、外國のあなどり
を受けたことは一度もありません。遠い昔はいふまでもなく、近
くは日清、日露の兩戦役によつて、國威を海外に輝かし、更に滿洲事
變、支那事變から、大東亞戦争が起るに及んで、いよいよその偉大な
力を全世界に知らせることができました。



新京の大同街

世界にためしのないりつばな國がらであり、すぐれた國の姿を
もつたわが國は、アジア大陸と太平洋のくさ
びとなり、大東亞を導きまもつて行くのに、最
もふさはしいことが考へられるのでありま
す。

大東亞の國々のうちでも、わが國の西隣り
にある滿洲及び支那は、日本と全く不可分の
關係にある大切な國です。ことに、新興の滿
洲はめざましい發展をとげ、日本とはいちば
ん親しい間がらにあります。大陸の國支那
は、土地が廣く人口も多いせるかなかなかまとまりにくい國です
が、大多数の人々は今やわが國をたよりとし、力を合はせて進まう

- ・ 「生き生きとした人間が感じられる地誌」は、「皇国地誌」を目的とした国定教科書として発展。戦前の地理教育は「臣民の教育」に大いに貢献。「生き生きとした地誌」は、執筆者の「想い」を強く伝えることが可能。
- ・ 戦後の地理教育は戦前の「皇国地誌」の反省を踏まえ「淡々と知識のみを平板に」を実践・・・。
- ・ しかし、「地理は暗記」から「地理的な見方・考え方」を重視する地理教育に大きく変化。テーマ学習、主題学習で構成。

地誌学習における「個別最適な学び」と「協働的な学び」とは (中学校の世界地誌(6州大陸)を例に)

- 生徒にとって興味のある「2つか3つの州大陸を学ぶ」ことで、「学び方を学ぶ」ことが「個別最適な学び」である【地域は網羅的でない】
- 生徒が関心のあるテーマ(例:産業、文化など)を中心に各自で6州大陸を学ぶことが「個別最適な学び」【テーマは網羅的でない】



生徒の興味関心、学力に応じた「個別最適な学び」と、国民の最低基準の教養としての世界地誌の「網羅性」をどの様に地理教育では考えるか？

- 育成すべき学力を「知識ではなく思考力」とし、その「習得主義」を公教育で考慮した場合の地誌学習とはどうあるべきか??
- 日本の学校文化である「授業時間数」による「履修主義」が転換するのか？

- 地誌学習では「国土像、世界像の醸成」に向けた地誌学習と、「地理的な見方・考え方」の事例地域としての地誌学習が必要。そのバランスを発達段階に応じて、どの様に設定するのか、理論と実践の両面からの研究も必要。
- ただし、「国土像、世界像の醸成」に向けて、個々の地域の地誌学習をどの様に集約するかは、実践の現状を鑑みた、一層の理論と実践の研究が必要では。
- 教育内容を増やすことは難しいなか、小学校での地誌学習の必要性・重要性を提起するには、社会科の他の内容との関係（例：歴史や公民分野のどこを削除するのか）も、セットで提案するなどの「覚悟」が必要になるのかも。
- 2030年頃からスタートする次期学習指導要領で授業を受ける子供たちは、2050年代以降に社会で活躍する人材である。そのような中長期的な視点に立った地理学関係者による検討に期待したい。

【戦後社会科としての地理学習と経済の関係】

「たまたま生まれた場所（地域）」で、人間の幸せに格差が生じることは不合理。

平等
(Equality)



公平
(Fair)



公正
(Justice)



- 人間の身長差という「多様性」は不可避ななか、例えば「サッカーの試合を応援する」喜びをいかに皆が実現できるかを考える上記の模式図は有名。
- 従来、身長差に応じた箱を用意することが「公正」と言われていた。しかし、近年は、グラウンドと観客を仕切る板を金網に変えるという、「前提をゼロベースで考える」なかで「公正」を実現するという考え方に変化しつつある。

【戦後社会科としての地理学習と経済の関係】

- 経済の視点は金額などの合理性を重視するため、地域の格差を顕在化して視覚化することが可能。地理学習に経済の視点を加味することで、地域の理解を深め、「地域の格差」、「地域の分断」を是正する教育につなげることが重要。
- 経済の視点を加味することで、地域の形成原理である資本主義社会を念頭に置いた理解になる。そして、民主主義による地域を形成する「主権者の育成」につなげる実践に期待。

ご静聴ありがとうございました

- ※ 本報告は、所属組織の公式見解ではなく、発表者の個人的見解と個人研究の成果です。
- ※ また、本報告は所属機関の見解に影響を与えるものではありません。

mitsuhi@mext.go.jp